

大学生のサポート資源による援助要請行動の違いについて

フォーマルな資源とインフォーマルな資源に焦点を当てて

○大弥萌恵（東京家政大学大学院人間生活学総合研究科）・三浦正江（東京家政大学人文学部）

キーワード：援助要請，サポート資源，利益・コスト，心理的負債，ソーシャル・サポート

問題と目的

我々は何らかの悩みを抱えて周囲の援助が必要となる場合がある。そのような際、心理の専門家等のフォーマルな資源より家族や友人等のインフォーマルな資源に対して援助要請を行う傾向がある（木村・水野，2004）。一方、インフォーマルな資源はフォーマルな資源に対する相談の予測変数ともなっており（永井，2010），フォーマルな資源への援助要請を促進する一つの方法としてインフォーマルな資源への援助要請も検討する必要があるといえる。したがって、本研究ではインフォーマルな資源とフォーマルな資源を比較し、各資源に対する援助要請行動の促進・抑制要因を検討することを目的とする。

方法

1. 調査対象者・調査時期

2016年10月中旬～11月中旬に大学1～4年生に調査を実施し、有効回答の得られた107名（男性10名，女性97名）を対象とした。

2. 調査内容

インフォーマルな資源を「家族や友人，先輩」，フォーマルな資源を「相談室や医療機関等のカウンセラー」と設定し，以下の②～⑤について回答を求めた。

①フェイスシート：学年，年齢の記入を求めた。②悩み領域別援助要請意思（沖原・山本，2013）：悩みの6領域に対して「相談しないと思う（0点）」から「相談すると思う（4点）」の5件法で回答させた。③ソーシャル・サポート（福岡，2010）：ソーシャル・サポートの入手可能性に関する8項目に対して，0～3の4件法で回答させた。④相談行動の利益・コスト尺度改訂版（永井・新井，2008）：利益・コストに関する6下位尺度26項目に対して，1～5の5件法で回答させた。⑤心理的負債（川島・中村，2014）：心理的負債感に関する4下位尺度4項目に対して，0～4の5件法で回答させた。

3. 手続き

調査の実施にあたり，個人情報保護，質問紙への回答は強制ではない点，回答を拒否した場合でも不利益がない点等を口頭および文書で十分に説明し，十分に倫理的な配慮を行った。

結果と考察

1. 性差の検討

各変数の性差を検討するため t 検定を行った。その結果，インフォーマルな資源では「対人関係」への相談意思 ($p < .01$) 及び心理的負債の「被援助利益」「心理的負債感」 ($p < .05$) で女性が男性より有意に高かった。また，フォーマルな資源では「対人関係」「健康」 ($p < .01$) 「恋愛」 ($p < .05$) への相談意思，利益・コストの「ポジティブな結果」 ($p < .05$)，心理的負債の「被援助利益」「感謝の念」 ($p < .01$)，において女性が男性より有意に高く，利益・コストの「自己評価の低下」 ($p < .05$) において男性が女性より有意に高かった。

すなわち，女性は男性に比べ，対人関係に関する悩みをインフォーマルあるいはフォーマルな相手に関わらず「相談する」と思っている。また，女性は「相談すると，気持ちがスッキリする」といった利益や「援助によって助かった」「援助に対して，感謝の念を感じる」などの心理的負債感を抱きやすいことが示唆された。

一方，男性は女性に比べ，健康や恋愛に関する悩みをフォーマルな相手に「相談しない」と思っている。また，「悩みを相談することは，自分の弱さを認めることになる」といった自己評価の低下を抱きやすいことが示唆された。

2. 各尺度における資源ごとの差の検討

各尺度において援助要請資源ごとの差を検討するため， t 検定を行った (Table 1)。その結果，相談意思及び心理的負債の全項目，利益・コストの「否定的応答」「秘密漏洩」「自己評価の低下」「自助努力による充実感」においてインフォーマルな資源が有意に高かった。

すなわち，相談内容に関わらず，フォーマルな資源よりインフォーマルな資源に対して「相談したい」と思うことが示唆される。同時に，インフォーマルな資源では，「相談してもバカにされる」といったコストや「悩んでも，人に相談するより自分で解決したい」という相談しないことへの利益を抱きやすい側面も示唆された。

今後は男女のバランスが取れたデータを用いた検討を行うこと，サポート資源ごとに各変数の関連性を検討することが課題である。

Table 1 家族や友人，先輩および心理カウンセラーの2群における t 検定

	家族や友人， 先輩 (N=107)		心理 カウンセラー (N=107)		t 値
領域別相談意思					
対人関係	3.89	(1.22)	2.36	(1.26)	10.70 **
恋愛	3.27	(1.33)	1.60	(.88)	12.17 **
性格・外見	3.18	(1.21)	2.08	(1.17)	7.29 **
健康	4.01	(1.10)	2.53	(1.28)	9.65 **
学業	3.91	(1.10)	2.14	(1.20)	12.95 **
進路	4.07	(1.13)	2.36	(1.28)	11.50 **
合計	22.33	(5.21)	13.08	(5.63)	14.33 **
利益・コスト					
ポジティブな結果	29.44	(5.15)	29.87	(6.09)	-0.80 n. s.
否定的応答	13.98	(4.02)	11.24	(3.58)	7.54 **
秘密漏洩	6.91	(2.88)	5.94	(1.97)	3.33 **
自己評価の低下	7.99	(3.07)	7.08	(3.06)	3.91 **
問題の維持	9.69	(2.85)	9.76	(2.95)	-0.30 n. s.
自助努力による充実感	8.96	(2.68)	8.31	(2.47)	4.67 **
心理的負債					
被援助利益	3.28	(.80)	2.97	(.98)	3.18 **
援助コスト	2.70	(.88)	2.50	(.88)	2.19 *
感謝の念	3.43	(.84)	2.85	(.99)	6.58 **
心理的負債感	3.18	(.86)	2.04	(1.07)	11.33 **

カッコ内は標準偏差

* $p < .05$ ** $p < .01$

利益相反開示：発表に関連し，開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。

(OYA Moe, MIURA Masae)